

SCHEDULE 2005年6月3日[金]

- 14:30 受付開始
- 15:00 あいさつ
■芳賀 徹<京都造形芸術大学学長・京都文藝復興倶楽部 代表幹事>
- 15:10 VJによるパネリスト紹介
- 15:20 企画紹介と近代産業遺産の定義
■関本 徹<アーティスト・NPO法人 国際芸術文化センター代表>
- 15:30 イタリアからの報告
■片桐 頼継<ダヴィンチ博物館研究員・実践女子大学助教授>
- 15:50 フランスからの報告
■高藤 芳丞<MANIFEST EURO-JAPAN 代表 [フランスの文化芸術交流協会]>
- 16:10 休憩
- 16:25 近代産業遺産のアート再生計画のモデルケースプラン発表・資金調達方法について
■関本 徹<アーティスト・NPO法人 国際芸術文化センター代表>
- 16:45 パネルディスカッション
「モデルケースに対する意見と近代産業遺産に対する芸術文化との関わり方、また、大学、アーティスト、企業、行政等はどう関わっていくべきなのか？」
■石川 祐一<京都市文化財保護課・文化財保護技師>
■大野木 啓人<京都造形芸術大学芸術学部長・空間演出デザイン学科教授>
■片桐 頼継<ダヴィンチ博物館研究員・実践女子大学助教授>
■高藤 芳丞<MANIFEST EURO-JAPAN 代表 [フランスの文化芸術交流協会]>
■馬場 孝造<京都黒染工業協同組合理事長・京黒紋付染協同組合連合会理事長>
■関本 徹<アーティスト・NPO法人 国際芸術文化センター代表> 司会、進行
- 18:30 交流会 (ラウンジ Ten-Shin)
会費：2,000円 ぜひご参加ください。

同時開催 2005年5月26日[木]⇒6月8日[水] (最終日は16:00まで)
場所：京都造形芸術大学 人間館A棟 1Fラウンジ

- 「近代産業遺産のアート再生計画」のモデルケースプランの発表と模型等の展示。
- イタリア、フランスからの事例報告と写真パネル展示。
- 全国にある近代産業遺産の中から、ランダムに抽出した、アート再生プランモデリング、ドローイング等を展示。

お申し込み・お問い合わせ先 参加申し込みは必要です。電話・Eメールで受け付けます。
特に交流会は必ず、お申込みください。

TEL:075-791-9124 Email:bungeihukko@office.kyoto-art.ac.jp

京都造形芸術大学 京都文藝復興倶楽部事務局 担当：浅菘・上田・松田

▲ 京都造形芸術大学

〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116

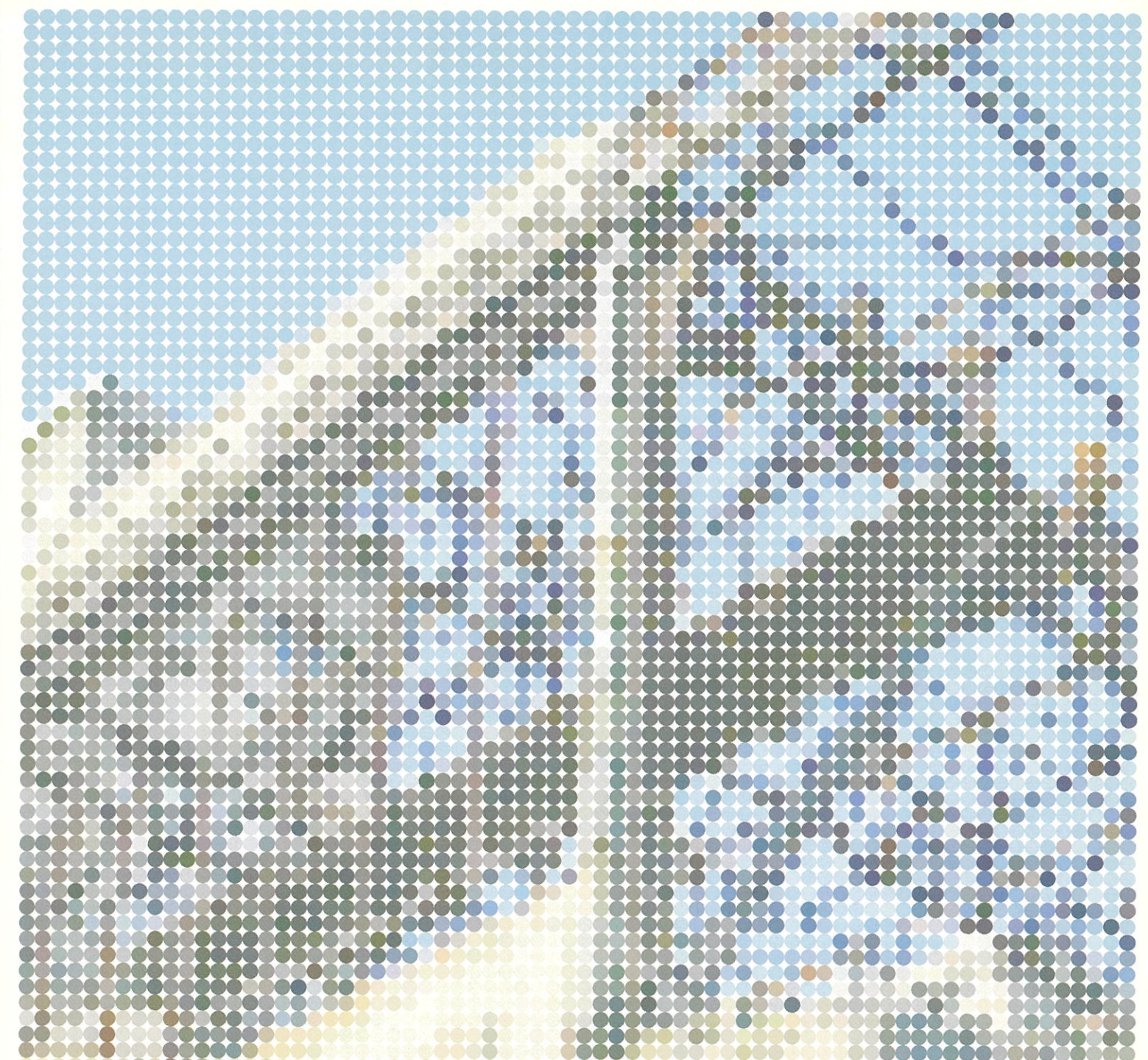
TEL:075-791-9122 (代表)

アクセス

- JR京都駅/京阪三条駅より
市バス5系統/岩倉行「上終町 京都造形芸大前」下車
- 阪急河原町駅より
市バス5系統/岩倉行「上終町 京都造形芸大前」下車
市バス3系統/百万遍 京都造形芸大前行「京都造形芸大前」下車
- 京阪出町柳駅より
叡山電鉄叡山線「茶山駅」より徒歩15分
- 地下鉄北大路駅より
市バス204系統循環/百万遍 京都造形芸大行「京都造形芸大前」下車
- 駐車場はございませんので、車・バイクでのご来場はご遠慮ください。



「近代産業遺産の アート再生計画」 シンポジウム



「近代産業遺産の アート再生計画」 シンポジウム

イタリア、フランスの事例報告を展示・モデルケースプランの発表と展示。

2005年6月3日[金] 午後3時→午後6時

■会場：京都造形芸術大学 京都芸術劇場「春秋座」 ■入場無料
■主催：京都造形芸術大学 京都文藝復興倶楽部 NPO法人 国際芸術文化センター MANIFEST EURO-JAPAN
■後援：近畿経済産業局・京都府・京都市・社団法人 日本ディスプレイデザイン協会・アートNPOリンク・あおぞら財団 (財団法人 公害地域再生センター)

近代産業遺産のアート再生計画にシンポジウム

近代日本の産業を支え、私達の豊かな生活を潤してくれた産業の現場は、近年の経済衰退によって、その一部はもはや稼動する事もなく、主を失い廃墟化して荒れ放題といったところも少なくありません。言い換えれば、現代において負の遺産として放置されています。古代遺跡や歴史遺産としての価値も見出せず、たかだか数十年の間で廃棄されたのも同然の建物（ホテル、学校、旅館、遊戯施設、工場、造船場、倉庫等）、コンクリート構造物（橋脚、外壁、エントツ等）、銅山、炭鉱、採石場、減反政策と働き手のいなくなった田、畑、山林等が無言のまま横たわっています。また不動産以外のものでも、家電を代表とする産業廃棄物、風化されてしまった記憶（火災、津波、地震、市町村合併等により名前のなくなった町、村等）、数えあげればキリがないくらいに私達の周辺に社会的な損失を象徴するものとして「近代産業遺産」は存在しています。

これら「近代産業遺産」が全国各地に点在している事実に私達は無神経で居続けられる事ができるのでしょうか。

「近代産業遺産」とその活用に対して、解答が急がれている時代に、芸術の立場からこれを有効利用、また地域の活性化、新たな表現の獲得を求めて、モデルケースブランや資金調達方法など具体的な事例と方法を示しながらアート再生計画へのスタートとなるシンポジウムを開催いたします。

京都造形芸術大学

京都造形芸術大学

近代産業遺産における芸術の役割

京都造形芸術大学

科学技術の発展を享受した 20 世紀の物質文明の終焉がいかなることか。新たに持ち上がる人類未経験のあらゆる問題点に直面しながらの先行きの混沌。見出せない答えに翻弄される現代人に果たして未来の光明があるのだろうか?殺戮の繰り返しという愚かさから人類を救う道があるのだろうか。あるとすれば、それは決して武力ではない。科学技術でもない。政治・経済でもない。宗教すら救えなかった。残された道は芸術ではないだろうか。芸術のみが人間にとって新たな指針を示すことの出来る唯一の道であるとわれわれは考える。

身近に目を向けると、順調かに見た近代産業においてもかつて無い試練に立たされてきている。かつての巨大重工産業が時代の急激な変化に対応できずに取り残されてしまった。この状況は時代の象徴としてわれわれの前に曝されている。いまや負の遺産と化した近代産業遺産が新たな活路を生む術を探し、苦境の現状打破に英知を求めている。

われわれはこの現状を真摯に受け止め、われわれが持つあらゆる知力・体力を結集して、この巨大遺産に果敢に取り組もうとするものである。われわれは人間の持つ無限の才能に着目し、そこから生まれ出る感動的な事柄のみに未来社会の道を求めている。自然を愛し、人を愛し、物質に翻弄されるのではなく、人間本来の姿を取り戻すことである。そこに志を持つ多くの芸術家たちの力が必要である。お互いが刺激しあって、時には協力し合うといった場が必要である。輪を拡げ、社会を抱き込み、運動として流れを作ることが必要である。近代産業遺産アート再生計画はその試みとして果敢に挑戦するものである。

今後も時代の変化はめまぐるしく変わるであろう。その変化に合わせ、フレキシブに対応しながら、京都造形芸術大学と日本の公益法人（アートNPO）と海外のアソシエーション（文化芸術）が手を取り合って共同作業を継続的に進めてゆくことが重要であると考えている。芸術が近代産業遺産を救うだけでなく、人間社会を救える手段と信じているからである。今回のシンポジウムはその第一歩の始まりである。

京都造形芸術大学

京都造形芸術大学 芸術学部長 大野木 啓人

PROFILE

大野木 啓人

■パネリスト

大野木 啓人 OONOGI Hiroto

京都造形芸術大学 芸術学部長
空間演出デザイン研究センター所長
空間演出デザイン学科教授

京都市生、京都市立芸術大学彫刻科卒業。日本美術家連盟所属。1967年から個展、公募展、グループ展で彫刻作品を発表。1972年から立体造形を中心にディスプレイの仕事に従事。1983年 三宅一生「ボディワークス」で人形制作を担当。以後、ファッション・デザイナーと組み、多くの新しいマネキンを発表。主な参加作品として、三宅一生「ハート展」[AUN展]、毛利臣男「毛利の服」、川久保玲「THREE WOMAN展」など。また、美術館等のアートディレクションや会場構成を手がけ、国立民族博物館「赤道アフリカの仮面展」[ラテンアフリカの音楽と楽器展]や「KENZO展」[現代のジャワ更紗展]「二条城ライトアップ」などがある。2000年から京都造形芸術大学空間演出デザイン学科教授。常に「人に優しい空間とは何か」をテーマにその活動範囲を広げている。

大野木 啓人

石川 祐一 ISHIKAWA Yuichi

京都市文化財保護課・文化財保護技師（建造物）

石川 祐一

1967年生。1996年京都府立大学大学院生活科学研究科修士課程終了。1997年より現職。（現在、京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科博士課程後期に在籍）
専攻：近代建築史、近代工芸デザイン史
共著：[古写真で語る京都-映像資料の可能性]、三宅理一+アンドレ・シガノス+澤井安勇編：[近代建築遺産の継承]

石川 祐一

片桐 頼継 KATAGIRI Yoritsugu

実践女子大学文学部美学美術史学科助教授
レオナルド・ダ・ヴィンチ理想博物館 特派学芸員

片桐 頼継

1957年生。1976年3月 岐阜県立岐阜北高等学校卒業
1978年3月 武蔵野美術短期大学美術科油絵専攻卒業
1979年4年 学習院大学文学部哲学科（文化芸術学系）入学
1983年3月 同卒業
1983年4月 同大学院人文科学研究科博士前期課程入学
1986年4月 同博士後期課程入学
1986年9月 ローマ大学文学哲学部美術史学科留学
1987年8月 帰国
帰国後は武蔵野美術大学、学習院大学等の非常勤講師を経て、1997年4月 実践女子大学文学部美学美術史学科専任講師
2000年4月 同助教授職務 現在に至る
2004年4月 文部科学省海外研究助成により、イタリアで研究活動
レオナルド・ダ・ヴィンチ理想博物館（在ヴィンチ村）にて特派学芸員として活動

■主要著書 監修・翻訳書
「復活『最後の晩餐』」(小学館) 1999年
「よみがえる『最後の晩餐』」(NHK出版) 2000年
「レオナルド・ダ・ヴィンチという神話」(角川書店) 2003年
安田火災東郷青児美術館「シルヴァーノ・ローディ・コレクション：イタリア静物画展」カタログ 2001年
東京都現代美術館「20世紀イタリア美術展」 2001年
松本市美術館「イタリア・ルネサンス三大巨匠素描展」カタログ 2002年

■近年の活動
イタリア・ルネサンス美術史、とくにレオナルド・ダ・ヴィンチの芸術論について研究するかたわら、諸美術展の企画・監修・カタログ制作、翻訳等にたずさわる。その他、1999年5月にはNHKスペシャル番組「よみがえる最後の晩餐」の制作を監修。また、2003年8月から9月（アテネ・オリンピック/パラリンピック期間中）、フィレンツェ市とアテネ市の共催、レオナルド・ダ・ヴィンチ理想博物館監修による「レオナルドとスポーツ展」（於、アテネ）に際して、学術協力および3D画像システムを用いた副展示物の制作を行う。

馬場 孝造 BANBA Kouzo

京黒染工業協同組合理事長
京黒紋付染協同組合連合会理事長
馬場染工業株式会社社会社 代表取締役

馬場 孝造

1947年 城巽中学校入学
1950年 同校 卒業
1950年6月 山内絹布再整工場入社
1953年9月 同社 退社
1953年9月 家業従事
1965年5月 法人(株式会社)設立 代表取締役就任
1973年5月 京黒染工業協同組合理事長
1982年10月 京都商工会議所会頭 顕彰
1983年 京都府知事表彰(業界功労)
1983年 京都商工会議所(老舗表彰)
1985年 京都府知事表彰(老舗表彰)
1989年5月 京黒染工業協同組合副理事長
1989年5月 京黒紋付染協同組合連合会理事長
1995年5月 京黒染工業協同組合理事長
1995年5月 京黒紋付染協同組合連合会理事長
1998年 近畿通商産業局（局長表彰)
2004年 京都市市長表彰（伝統産業技術功労者)

馬場 孝造

高藤 芳丞 TAKAFUJI Yoshiaki

MANIFEST EURO-JAPAN 代表

高藤 芳丞

1955年生
1980年ベルリン・パリに遊学（ベルリン造形大学など在籍、アートイベントの演出、プロデュースについて学ぶ。）
1984年帰国後、美術イベントのディレクター、著述家として活動。美術建築について、ブルータス、商店建築誌などに寄稿。美術と社会との接点を数多く構築するためのイベントに従事。1990年より、日欧間の文化交流のため、欧州に拠点を設置。青山ショーケースパン、睡魔文化ギャラリーなどのキュレーターを経て94年東京青山で行われた画期的なアートフェスティバル「マニフェスト94」を主宰。「デジタル・マニフェスト」[DEVILROBOTS展]など数多くパリでの展覧会をディレクション。東京写真美術館でのファブリツィオ・コルネリ展のキュレーターを勤めるなど日欧の文化交流活動を行っている。現在、パリ（フランス）の芸術文化交流協会である"MANIFEST EURO-JAPON"の代表を務める。

■著作
「匂い遊びの博物誌」現代出版
「レセプター」青林堂

高藤 芳丞

■モデレーター

高藤 芳丞

関本 徹生 SEKIMOTO Tetsuo

NPO 法人国際芸術文化センター代表理事
(社) 日本ディスプレイデザイン協会理事
MANIFEST EURO-JAPAN ジェネラルマネージャー
アートNPO リンク理事
京都造形芸術大学非常勤講師
(株) エス・ワンダーランド

関本 徹生

和歌山生 高校在学中からアート活動を始める。自身の中にある疑問や自由な発想がパフォーマンス活動へ発展。ミクロネシア、ヤップ島をはじめアフリカ大陸横断など、アートパフォーマンスで訪れた国は20カ国を超える。

90年頃より、アートディレクターとして商業施設のディスプレイ・オブジェの企画制作も開始する。この15年で手懸けた作品は4500点を超え、91年より個性的で創造性に富んだ空間環境デザインの作品を評価する「日本のディスプレイ商環境デザイン」をはじめ、各賞に毎年複数受賞し続ける。93年、作品点数（250点）が多いため、ギャラリーでなくホールで個展「関本徹生の超極彩色王国」を催し話題を呼んだ。

95年、阪神大震災にて被災。すべての被災者が“元の氣”をだすためにと、98年作品集「南方元氣・楽説」（ブレーンセンター刊）が出版される。この本が、演出家・噴始（たべはじめ）の手に渡り、人気絶頂劇団「WAHAHA本舗」全国公演「大通夜」の舞台美術を手掛ける事になる。また、花形狂言会（大蔵流・茂山家）98年の舞台美術やアイヌ音楽のオキ、詩人白石かず子、ドクトル梅津、渡辺香津美、清水興等の他にサクソ奏者坂田明とのコラボレーションがある。日本初のシネマコンプレックスのキャラクターショップ環境演出を担当。全国各店舗に異なるテーマで“エンターティメント”を演出。一人のアーティストが連続して異なるテーマで商業施設の空間演出を手掛ける事は日本では稀である。

2000年から2001年にかけて廣マネキンを再利用したアートマネキン「108プロジェクト」を全国アートキャラバン展開。その内容を収めた、第2弾作品集として2002年に「108煩惱冒険物語」（青心社 刊）が出版。

関本 徹生

京都造形芸術大学 芸術学部長 大野木 啓人

京都造形芸術大学 芸術学部長 大野木 啓人

京都造形芸術大学 芸術学部長 大野木 啓人

京都造形芸術大学 芸術学部長 大野木 啓人

京都造形芸術大学 芸術学部長 大野木 啓人

京都造形芸術大学 芸術学部長 大野木 啓人

京都造形芸術大学 芸術学部長 大野木 啓人

京都造形芸術大学 芸術学部長 大野木 啓人

京都造形芸術大学 芸術学部長 大野木 啓人

京都造形芸術大学 芸術学部長 大野木 啓人

京都造形芸術大学 芸術学部長 大野木 啓人

京都造形芸術大学 芸術学部長 大野木 啓人

京都造形芸術大学 芸術学部長 大野木 啓人

京都造形芸術大学 芸術学部長 大野木 啓人

京都造形芸術大学 芸術学部長 大野木 啓人

京都造形芸術大学 芸術学部長 大野木 啓人

京都造形芸術大学 芸術学部長 大野木 啓人

京都造形芸術大学 芸術学部長 大野木 啓人